

世界と日本 有機農業の取組面積

世界では、欧米を中心とした有機食品市場の広がりに伴い、2018年には、71.5百万ha、全耕地面積の約1.5%で有機農業が行われている。これは、1999年から比べると約6.5倍の取組面積の拡大である。欧州諸国での拡大が高い一方、アメリカや中国は低く1%に満たない。

わが国では、2009年から2018年の間に有機農業の取組面積は45%、そのうち国際的に行われている水準を満たす「有機JAS認証を取得している農地」も20%増加しているが、後者は耕地面積の0.2%の約11千haに過ぎない。政府は2050年までにオーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）への拡大を目標に上げている。

世界の有機農業では、田畑や樹園地は安定的に面積が拡大しており、近年永年草地の拡大が顕著である。一方、わが国では欧米に比べて田畑の割合が高く、草地の割合が低く、茶畑が13%を占め、近年その面積が大きく拡大している。

2018年度に国内で有機JAS認証を取得した農産物は年間約7万トンで、うち野菜が66%、米は12%であるが、国内の農産物総生産量のうち有機農産物が占める割合は、野菜は約0.4%、米や麦、果実は0.1%程度に対し、茶は6%を超え、大豆も0.54%となっている。海外から日本に輸入される有機農産物は年間約5万トン（国内格付け数量の約7割）で、大豆と果実が過半を占めている。

（有機農業をめぐる情勢 令和2年9月 農業環境対策課） (K. O)

表-1 世界の有機農業の取組面積（2018年）

| 国名 | 有機農業面積千ha | 耕地面積に占める% | 有機農業面積に対する地目別%（2017年 ²⁾ ） | | | | |
|------|--------------------|-----------|--------------------------------------|-----|-----|----|----|
| | | | 田 | 普通畑 | 樹園地 | 茶畑 | 草地 |
| イタリア | 1,958 | 15.8 | 0.1 | 45 | 25 | — | 29 |
| ドイツ | 1,521 | 9.1 | — | 41 | 1 | — | 57 |
| フランス | 2,035 | 7.3 | 0.01 | 54 | 7 | — | 39 |
| アメリカ | 2,023 | 0.6 | 0.1 | 49 | 2 | — | 48 |
| 日本 | 10,8 ¹⁾ | 0.2 | 27 | 47 | 4 | 13 | 8 |

1) 有機JASを取得している面積のみ計上。2) アメリカは2016年のデータ。農業環境対策課作成から引用。

表-2 有機JAS認証取得農産物の格付状況

| 区分 | 総生産量 (t) | 格付け数量 (t) | 有機JASの割合 [*] | 有機農産物の区分別割合 |
|--------|------------|-----------|-----------------------|-------------|
| | | | | |
| 野菜 | 11,306,000 | 45,839 | 0.41% | 66.1% |
| 果実 | 2,833,000 | 2,805 | 0.10% | 4.0% |
| 米 | 8,208,000 | 8,635 | 0.11% | 12.40% |
| 麦 | 940,000 | 766 | 0.08% | 1.10% |
| 大豆 | 211,000 | 1,143 | 0.54% | 1.60% |
| 緑茶（荒茶） | 815,000 | 4,970 | 6.10% | 7.20% |

^{*} 各区分における国内総生産量に対する有機JAS格付け数量の割合